とても人懐っこいシングシングシング。新開調教師の肩にも顔をのせていました

小島友実の

あの馬のSTORY

シングシングシング

シングシングシングは昨年夏までグリーンファーム所属馬としてJRAのダート短距離で4勝したアースゼウス(現在は高知競馬に移籍)の半妹。新開幸一調教師はアースゼウスの半弟であるカヴァレリア(現在は大井競馬に移籍)に続き、シングシングシングを管理しています。

「この馬を初めて見たのは1歳の秋頃ですね。エンパイアメーカー産駒のカヴァレリアとは違ったタイプで、シングシングシングは父がヨハネスブルグという事もあり胴が詰まって、スピードがありそうだなと思いましたね。血統背景から早く始動出来そうな馬だったので昨年5月に入厩して来たのですが、挫石や新しい環境に変わってストレスを感じてしまった事もあり、一度放牧へ出て立て直しました」

美浦トレセンへ戻ってきたのは昨年9月。ゲート試験もすぐに受かり、調教を重ねて行きました。

「追い切りを行うにつれて動きが良化。非力な面があってスピードがありそうなタイプだった事から、10月の新潟芝1400㍍でデビューしました。ゲート練習時はセンスのよいところを見せていたので、横山武史騎手には、『スタートが良い馬だから、スピードを活かす競馬をしてほしい』と話していたんです」

しかし、レース当日の新潟競馬場では雨が降り、芝コースのコンディションは重。シングシングシングには試練のデビュー戦となってしまいました。

「スタート自体は悪くなかったけど、その後は進んでいかなかったですね。向正面では最後方。稽古の内容から、こんなについていけない馬ではないから、なぜだろうと思いました。重馬場が堪えましたね。あとは初出走でこちらが思う以上に馬が気を遣ってしまい、レースに集中出来なかったようです。デビュー戦の後は背腰に疲れが出て、レースで走った事でテンションが上がり、馬体も細くなってしまったので、放牧に出しました」

私がシングシングシングに会いに美浦へ行ったのは2月1日。馬房を覗いてみると、担当の遠藤英美厩務員に甘えるシングちゃんの姿がありました。

「競馬場や馬場ではテンションが上がる時があるものの、馬房では大人しくて扱いやすい馬ですよ。飼葉食いも良いです。私は厩務員歴が約30年なのですが、その中で3本の指に入るくらいの人懐っこいですね。本当に可愛い馬です。普段、なんと呼んでいるかですか? それは、ペコちゃんです。この仔はハミをつけるとペロって舌を出すんです。それでペコちゃん(笑)」

シングシングシングはこの仕草を美浦にいる時しか行わないそうで、「パドックでは舌を出さないですね。もし出ていたら、だらけている時かもしれません(笑)」と遠藤さんは教えてくれました。

馬房では世話をする遠藤さんの後をくっついて歩くそうですよ。ここまで人間になつく馬はそう多くはありません。遠藤さんの肩の上に顎を乗せるシングシングの姿は本当に愛らしく、今後も無事に調教を行っていき、待望の初勝利を挙げてほしいと願わずにはいられませんでした。

その後、2戦目は2月3日の東京ダート1300㍍戦へ出走しました。

「デビュー戦の頃は非力な所もありましたが、最近は走りがしっかりしてきたし、血統背景からも向くだろうと考えて、短距離のダートへ行きました。揃ったスタートから5番手位の外を追走。ダートもこなしてくれたし、最後はちゃんと伸びて5着。力があるところを見せてくれたと思います」

2戦目の後も厩舎で調整。3戦目は2月17日の東京ダート1300㍍戦に向かう予定となっています。

「まだ気性が幼くて、もう少し大人になってほしいと思いますが、兄のカヴァレリアと同じように晩稲なタイプなのかもしれません。稽古の動きを見ていてもスピードがあり、現状では1400㍍前後でそれを活かすのがベストでしょう。グリーンファームさんの縁の血統ですから、なんとか結果を出して長く活躍させられるよう、しっかり調整していきたいですね。きっかけさえ掴めば、ガラっと変わるタイプだと見ているので、長い目で応援して頂けたらと思います」

シングシングシングはスウィングジャズの代表曲の一つ。馬名の意味に込められた、躍動感のある走りを、で先頭ゴールインする日を待ちたいですね。

(取材日:2月1日、13日)

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00〜20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。